

世界文化小史

A Short History of the World

H・G・ウェルズ

Herbert George Wells

下田直春——訳

Shimoda Naoharu



講談社
学術文庫

世界文化小史

常州大学図書館

蔵 H・G・ワエル 章
下田直春 訳

講談社学術文庫

H・G・ウェルズ (Herbert George Wells)

1866—1946。イギリスの著述家。『タイム・マシン』『宇宙戦争』『解放された世界』などのSF小説のほか、歴史家・社会活動家として『世界文化史大系』『新世界秩序』『人類の運命』など多くの著作を残した。

下田直春 (しもだ なおはる)

1935—1994。長崎県生まれ。早稲田大学第一文学部卒。同大学院博士課程修了。専攻は社会学。文学博士。立教大学社会学部教授在職中に逝去。著書に『社会理論と社会的現実』『社会学的思考の基礎』ほか。



定価はカバーに表示してあります。

せ かいぶん か しょう し
世界文化小史

H・G・ウェルズ / ^{しもだ なおはる}下田直春 訳

2012年7月10日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 株式会社廣済堂

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Ritsuko Shimoda 2012 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えます。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。㊞(日本複製権センター委託出版物)

ISBN978-4-06-292122-0

目次

序	3
一 空間における世界	13
二 時間における世界	16
三 生物の始まり	19
四 魚類の時代	23
五 石炭沼沢の時代	28
六 爬虫類の時代	32
七 最初の鳥類と最初の哺乳動物	37
八 哺乳動物の時代	42

九	猿、類人猿、および原人	47
一〇	ネアンデルタール人とローデシア人	52
一一	最初の真人	57
一二	原始思想	63
一三	農耕の始まり	68
一四	原始的新石器時代文明	74
一五	シュメール、初期エジプト、および文字	80
一六	原始遊牧民族	86
一七	最初の航海民族	90
一八	エジプト、バビロン、およびアッシリア	97
一九	原始アリア人	104
二〇	最後のバビロニア帝国と、ダリウス一世の帝国	110
二一	ユダヤ人の初期の歴史	116

二二	ユダヤの祭司と予言者	123
二三	ギリシア人	128
二四	ギリシア人とペルシア人との戦役	135
二五	ギリシアの栄華	140
二六	アレクサンダー大王の帝国	144
二七	アレクサンドリアの博物館と図書館	149
二八	ゴータマ仏陀の生涯	155
二九	アショーク王	162
三〇	孔子と老子	164
三一	ローマの歴史への台頭	170
三二	ローマとカルタゴ	177
三三	ローマ帝国の成長	182
三四	ローマと中国との間	196

三五	初期ローマ帝国下の平民の生活	202
三六	ローマ帝国下の宗教的發展	210
三七	イエスの教え	218
三八	キリスト教教理の發展	226
三九	蛮族による帝国の東西分裂	230
四〇	フン族と西ローマ帝国の終息	237
四一	ビザンティン帝国とササン朝帝国	244
四二	中国における隋・唐王朝	249
四三	マホメットとイスラム教	252
四四	アラビア人の全盛時代	256
四五	ラテン・キリスト教界の發展	262
四六	十字軍と教皇振権時代	273
四七	諸侯の反抗と教会の大分裂	285

四八	蒙古人の征服	296
四九	ヨーロッパ人の知的復活	303
五〇	ラテン教会の改革	314
五一	皇帝チャールズ五世	319
五二	ヨーロッパにおける政治的実験時代	330
五三	アジアと海外におけるヨーロッパ人の新帝国	342
五四	アメリカ独立戦争	349
五五	フランス革命とフランスの王政復古	356
五六	ナポレオン没落後のヨーロッパの不安な平和	365
五七	物質的知識の発達	371
五八	産業革命	382
五九	近代的政治・社会思想の発展	387
六〇	アメリカ合衆国の膨張	401

六二	汽船と鉄道による新しい海外諸帝国	414
六三	ヨーロッパ人のアジア侵略と日本の勃興	422
六四	一九一四年のイギリス帝国	429
六五	ヨーロッパの武装時代と第一次世界大戦	432
六六	ロシアの革命と飢饉	438
六七	世界の政治的・社会的再建	444
年表		454
補注		466
解説		482
索引		523

世界文化小史

H・G・ウェルズ

下田直春 訳

講談社学術文庫

序

この『世界文化小史』は、小説でも読むように、一気呵成かせいに通読されるようにもくろまれている。それは、歴史に関するわれわれの現在の知識を、ごく一般的に説明するものであり、綿密なことがらや複雑なことがらは省かれている。読者は、本書から歴史の概観をつかみうるであろうが、それこそは、ある特定の時代やある特定の国の歴史を研究するのに、どうしても必要な枠組みである。本書は、より充実した、より明確な、拙著『歴史の梗概』(The Outline of History)を読む前の、準備旅行として有益であろう。しかし、本書が特に目的とするところは、せわしさのあまり、かの『梗概』の地図や年表を詳細に研究することのできない、多忙な一般読者の要望に応えることにある。これらの一般読者は、人類の偉大な冒険についての、色あせた、あるいは断片的な、自分の考えを、ふたたび新たにし修復したいと望んでいるのである。本書は前記著作の抜粋ないしは圧縮ではない。『梗概』は、その目的範囲内では、あれ以上圧縮する余地はないのである。この小史は、よりいつそう一般化された歴史であり、新たに立案し執筆されたものである。

目次

序	3
一 空間における世界	13
二 時間における世界	16
三 生物の始まり	19
四 魚類の時代	23
五 石炭沼沢の時代	28
六 爬虫類の時代	32
七 最初の鳥類と最初の哺乳動物	37
八 哺乳動物の時代	42

九	猿、類人猿、および原人……………	47
一〇	ネアンデルタール人とローデシア人……………	52
一一	最初の真人……………	57
一二	原始思想……………	63
一三	農耕の始まり……………	68
一四	原始的新石器時代文明……………	74
一五	シュメール、初期エジプト、および文字……………	80
一六	原始遊牧民族……………	86
一七	最初の航海民族……………	90
一八	エジプト、バビロン、およびアッシリア……………	97
一九	原始アリア人……………	104
二〇	最後のバビロニア帝国と、ダリウス一世の帝国……………	110
二一	ユダヤ人の初期の歴史……………	116

二二	ユダヤの祭司と予言者	123
二三	ギリシア人	128
二四	ギリシア人とペルシア人との戦役	135
二五	ギリシアの栄華	140
二六	アレクサンダー大王の帝国	144
二七	アレクサンドリアの博物館と図書館	149
二八	ゴータマ仏陀の生涯	155
二九	アシヨーカ王	162
三〇	孔子と老子	164
三一	ローマの歴史への台頭	170
三二	ローマとカルタゴ	177
三三	ローマ帝国の成長	182
三四	ローマと中国との間	196

三五	初期ローマ帝国下の平民の生活	202
三六	ローマ帝国下の宗教的發展	210
三七	イエスの教え	218
三八	キリスト教教理の發展	226
三九	蛮族による帝国の東西分裂	230
四〇	フン族と西ローマ帝国の終息	237
四一	ビザンティン帝国とササン朝帝国	244
四二	中国における隋・唐王朝	249
四三	マホメットとイスラム教	252
四四	アラビア人の全盛時代	256
四五	ラテン・キリスト教界の發展	262
四六	十字軍と教皇振権時代	273
四七	諸侯の反抗と教会の大分裂	285

四八	蒙古人の征服……………	296
四九	ヨーロッパ人の知的復活……………	303
五〇	ラテン教会の改革……………	314
五一	皇帝チャールズ五世……………	319
五二	ヨーロッパにおける政治的実験時代……………	330
五三	アジアと海外におけるヨーロッパ人の新帝国……………	342
五四	アメリカ独立戦争……………	349
五五	フランス革命とフランスの王政復古……………	356
五六	ナポレオン没落後のヨーロッパの不安な平和……………	365
五七	物質的知識の発達……………	371
五八	産業革命……………	382
五九	近代的政治・社会思想の発展……………	387
六〇	アメリカ合衆国の膨張……………	401